

今年には昨年に比べて患者が多い
京畿道警務部 衛生係主任 談

四五名の患者を發生し
 寧ろ中流以上の家庭に
 居るから今月中には無
 名以上

赤痢は盛夏の候よりも夏秋の
に最も流行する様である昨年は今
や甚だ暑い内、地人殊に中流以上
の人は朝鮮人よりは衛生の事に注意

●京城の赤痢は まだ容易
 事理に非く

年程の流行はなかつたが七月には五
 十八人、八月には三十九人、九月には五
 十三人、又今風に九月に至り最も多
 くの患者を出して居るから

が厚いから豫防に與て充分の注意も
 し、疫氣にも罹れば拾て置かず直に醫
 師の診察を受けられ、而かも下痢、紅
 疹に朝鮮人の下流社會に主ては多く
 事理に非く

中に入釜敷衛生に注意する人て
少しく涼しくなると鬼角無戒心が
事から病氣に罹つても過多に醫師の
診察も受けず輕症の者は平氣で外出
するが

緩み油斷る程であるが此の際市民は決して従來の警戒を緩めず益々豫防に十二分の注意を要する。謂へる虎兇持たせバストと云ふよと上下的つて大に警戒を加へ、豫防に努める

● 岩崎男の圖書館買収

なるべき専断を以て一時的に成る程度列拉ベストの如きは
 意を拉にせしむるべきなり
 森代議士失格

に大流行を來し容易なり。○陰室を造
うするが併し煙草事も早い又赤痢等
扶斯の癰は年々流行せしめ云はる一
時病の種であるが亦赤痢等扶斯の如
きは年々患者の過つたに事々然し

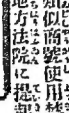
●馬賊邦人賣藥
にて某氏の失墜となりたり(大阪朝日新聞)

始終小流行をして居る

力を罄耗する上から云ふと是等の使
 役が社會に溢す氣配は遙かに處分
 拉やベストよりはる以上と云はね
 雨

一名の町長は「鐵道より先づ各人
 たる禁煙人を始め三近隣の支那人
 等集合せのたるを悉く空の一隅に押
 込め賊四名は屋外を襲ひ三名は各

◆ 驟雨 ◆ 古賀祐雄



今日の處復舊の見込みが立たぬ

十日空月のめ同日午後五時頃京葉
鐵道津浦・南浦線の鐵道線路上に
生じ、切腹死した。出
発車直進列車は正午金都驛を發せ
て急行車として津浦驛に止まり、
京葉間城以北は十日午後非常な急
行車として午後五時より津浦・南
浦線の鐵道線路上に墮落を生じ、津
浦線に墮落して全く不通となり、
此處に激烈なる落雷は鐵道の電
氣設備に甚大なる損害を與へた。

南大門發生隕行死車は遂に發車
のを得ざりし因に復舊工事は
新任參謀長市川少將一行の

△被害は大きい
居れる普通急行列車は、油に基き居たり同様に、特急列車も

氏は工藤辯護士を訴訟代理人とし、
東京府裁判所第一民事部で原告の
主張を認められ、被告の請求は却下
された。

城覆審判院に控訴せり因みに朝

正のものありて先頃本町警察署より二箇月の營業停止を受け居れり

長崎縣南高來郡多良比村生京
を以て營業を開始
したるに被告は其
井町二丁目噺者中田りき(一九一

の後に於て類似の商號を以て營業を
 再始するに至りし
 は原告の營業上世
 間に疑惑混同を
 受くること多きを
 以て此の請求に反
 びたるものなりと
 主張し被告側に混
 同させる意志あり
 ての商標に非らず
 六歳の間より常に美装して藝妓人
 年を相手に活動舞臺等に出入し
 和を棄置するのみならず藝妓あり
 手に負へざるも家庭貧しき爲め家
 一を顧みざるより同人は到る所
 て手當り次第に窃盜を働きて日本
 警察署に引致されたるが最近に於
 本町二丁目三番某方にてルビ入金
 輪一個(二十二圓)を盗みし又同町
 木某方にて金指輪一個を其他靴

高塔上に落雷

雷神あり、二門二十ヶ所見城にて
最高塔の稱ある則、光明寺、佛蘭西教會
堂、土庫の交連に蓋され、當りて是を
三十三ヶ所を觀戰破壞せしめたるものなり
と云ふ也

○補修關等が優良なものである。
前記、礮臺上印本中、三井製氷(源右
衛門氏)の社藏に係るものを見たが、
頗る優秀なるもので、同氏所蔵の

京城管理局大阪出張所に於て募集
たりし朝鮮視察及び金剛山探勝團

第一回文三筆は十月十六日眞鍮金
筆で入る。酒の王元白に配ひ金
蘭山折鶴の賦畫程王守に描く。且
京し更に仁川を視察し二十四日夜行
にて南大門登臨殿を豫定なりと飾し
て本陣體に對しては二幸車一轎を増
し且つ妙車結往を専處來せしむ
(四等車之轉送如何の

五十名南大門發列車では露國人男子六十名長春より動員二回ひ

[illegible]

「門主義之流の言を全同視す可らざるを以て
法帖となしたるものありや」あらう、何れの伯

に水を得るに如く
 (各)それれは光明皇后、樂毅論、秋葉
 堂蘭花、種珍蘭花、朝御殿の夷曲帖、
 堂蘭氏、九月十七日帖を金蘭殿乃主
 コロタイプにて原本のまゝ刷出せる
 法帖がある、ソレは東京神田佐久間
 町の一両聖書房で賣つてゐるが
 價格は一帖二百以下で求め得る事が
 出来ようと思ふ)

此は引つて、日本要書、即會、龍田隆達
 中の相違より、明治三十四年八月十一
 夜より二、三張りとして出づべき要書、若三和
 正一冊、當時の流通にしての外面也と
 の便あり

阪神地方の成金の助
 恩は素直なものだ
 さうだが所謂小成金
 に屬する分の風工の
 うわさ



答）それは唐の太宗が非常に王羲之の書を愛散し、如何なる小さな断片

有勢と別名屋之の書さへは、悉く莫
明て無上に珍重し殊に蘭亭帖を擁護
してのを此の上なぐ奪はれたもので
ある。それ故當時の能書家たる歐陽
詢と稽遠良に倣ひて羲之の書を臨模
させたものである。今遺つてゐるの
ものは多く此の歐と緒の臨模したるの
指更らに臨模したるを羲之の書と
して傳へられてゐる譯である。然る
に本宗は蘭亭帖を極度に愛玩した
りしたさうである

陸軍御用酒

東京蓬萊町

發賣元 三巴酒造株式會社

電話長一〇六七番
振替口座六一八番

大田出張所
電話長二二五番

平壤出張所
電話長五一一番

特約販賣所は鮮滿樞要の地にあり

香油大王
キング
リウ

好評満員續のお芝居
 サッポロピールの
 大々的後援を仰ぎつゝある
 滑稽江戸生粹いさみ會
 喜劇海老一座替藝題
 八月十一日より
 一、舞臺定曲 藝 一幕
 二、新派悲喜劇 親の戒 二場
 三、舊劇 三組 盃 二場
 四、獨特 三人滑稽引抜き曲藝 一幕
 入場料 特等 金七十錢 二等 金三十錢
 一等 金五十錢 三等 金十五錢
 京 城
 壽 座
 電話五七八番

特製鶴之卵石鹼は現代の化學に於て攻究すべき範圍の總てを盡したる最善最良の石鹼にして其品質其芳香いづれも需用者の期待と合致すべき優等品なり。

普く江湖の御批判と御愛用を俟つ

發賣元 東京市馬喰町 淺井支店

The illustration features three umbrellas and a stone. The top umbrella is open and has the character '鶴' (Tsuru) in the center, with '特製' (Tokusei) written vertically on the right side. The middle umbrella is also open and has the character '之' (No) in the center. The bottom stone is oval-shaped and has the characters '卵石' (Oishi) and '鹼' (Alkali) written on it. The umbrellas are connected by a string, and the stone is attached to the string by a small handle.

七九

松田竹の人作

京子は、お豊の什麼か爲るといふのは、頼りないことで、甚麼成行に任せるといふやうな無能ではなかつた。

「そりやお前、什麼か爲るに極つてるぢやなくつて、けれども什麼か爲るゝ澄ましちや居られないからねゝそれで今言つた通り、妾は一人で喰べて往かれるやうに爲やうと思つてから、氣の毒だけれど、お前に東京へ歸つて貰はうと思つたのだわ。其代り妾が市野へ歸れるやうに爲るゝ吃と恩返しを爲てよ。」

「ぢや御目奥様は、御家に御歸りに爲る御意でゐらつしやいますか？」

「さう、自活して往くんだわ。然うするとも旦那様は、配と彼を宅へ入れて下さると信じてゐるのよ。」

「お豊は京子の言葉を打消すやうに『お嫁に通しせ切つてゐらつしやる旦那様ですもの、甚麼ことがおありに爲るもんぢやございせん。奥様は可い方へ／＼と思ひ込んでゐらつしやるから不可ません。それよいか反對に、御都合の御是るい方を御考へ道はしたら什麼でございますかか。或致しますと逆も御毛へ御歸りに爲れることが御分りだらうと思ひま



官舎の空地に見渡す限り茄子を作つてゐるので次々と新しいのを置て喰べるのだと分つた茄子語り作らないでダリヤ朝飯も少しは作つたらどうですと云ふ。「馬鹿ッ、ダリヤが喰はれるかッ」

◆物凄ゝ骨重成金 昨年三回の伊達家入札で上野氣を占めた東京美術俱樂部はその株主に二割と云ふ未曾有の配當をしたが今年になつて秋元赤星なんど續々大入札あり遂に無い莫大な収入があつたのでこの上野氣の配當は驚愕列七割と云ふ物凄さを示した面もその中から積立て懸々大々的に俱樂部を新築する相々素知らずの景氣である

枝娃

日報飯壇

女の世界有美人(俗頭第八卷) (一) (重
 京新聞記者 明治三十二年 大正四年十二月 昭和
 一 第五期)

市中の小溝、泥水溜
 を荷船婦人の洗濯を
 するものあり、不潔極
 める彼れこそ、時節柄
 の、
 汚者

早速取締らねば衛生上にも非常に悪い(通行生)

市内の溝を浚つて其の
 泥や砂を道路に入れるのは御免を蒙
 る附近の家は蠅が增けて臭くて仕方
 がない(清澤道人)

溝はここは近來水
 死人が非常に多くなつた(京龍の坊主)

やん達一帯浚發して川施設鬼をやつ
 ては何うですか奇特な事ですよ(水
 泳者)

鐵道が溝と合併したと同
 時に入場券五錢を全廢か一錢か二錢
 かに改正して賤ひた物價(鐵道の今
 日あれ大けは餘計なものを全廢して

生れついで毛の美しい人の髪をやうな色澤に染まつて、東髪でも日本髪でも非常に結染がし、又年とつた方々でも少しも不似合の事が無い自然の色の澤に染まり、其に染方は何の造作もなく、時間には僅か二十分て染上り、保はよく、外へは絶対に閉まされぬから、今では白髪染といへば何

何うしても染めたるは見ゆる、丁度

成専門の學者が長い間研究を積んで完成したわけであつて、ナイスで染めるで少しも糖ざらしい所が無く



「此世猶幸い世の中に、什麼して其
麼ことが能きるもんかね。」
「そこらが貴女様なら、御能き遊ば
すのでございますよ。』

涼みぐら

◇タリヤは喰へぬ　高橋夏
京彌長曰く『此の頃晩飯のお菜に
是が子の漬物ばかりを喰つてゐると實
に旨いよ!』との自慢でうけてそんな
に茄子ばかり喰べたのを聞いてみると

(昭和六年九月七号)

[illegible]

從來の人の染めた髪を見ると、如何にも際立つて鮮々らしく、色澤が一服の人の髪と違つて、一見染めたものと分ります。其止其變な黒色は首に附き髪に附き、顔の物何にても附き、直に斜れて終つていふ上合て、自然の美しい髪の色やうな色澤に染る染毛劑は在りませんした。

けれども其染毛劑は追々進歩して以前から見れば稍良いものが出現しましたがまだ、自然の髪の色に都合よく染る。決め度い事は染め度い。染色が除く不自然な割然自立のて困る。と云つて遠く行つた。

毛を染めるの必要のある人々が、斯うして尙非常な不自由を感ぜられてゐた所へ、漸く完成を算されたのが現今最も進歩した白染毛劑として各家庭に實用されるナイスです。

染めたと見えぬ
後の染方

赤毛を生ぜむし憂の絶對

マボロシ



一番よくきく品質本位の懐中薬

う た ほ う かん

寺田寶丹

匙二匙朝夕必ず服用せよ

暑さに負けず元氣よく
胃腸丈夫に食欲進み
頭痛眩暈疲勞を防ぎて

惡疫諸病に罹る事なく

夏の健康は

暑い

悪疫諸病流行の今

家庭に、執務に、避暑に、旅行に

先づ第一に用意すべきは……

御
用
品

[illegible][illegible]

国大阪商船社出帆
 ○往新嘉坡 檳榔嶼 暹羅 仰光 孟買 倫敦 香港 上海 神戶 橫濱 大阪 京都 名古屋 東京 函館 青森 大板行
 船の時より出帆す可也 運賃等別表に示す
 天智丸 八月十八日 午後二時出帆
 漳州丸 八月廿六日

商 况

安値
 止の
 二〇
 二〇
 二七
 五五
 二二
 五五
 大阪米特電

客付き其銀七錢と跳れ三錢と押さへたらが大銀五
節二十三兩〇三錢と高移りに買物銀二二十二錢
と上伸せしも戻りは又買物多く買物にも上伸せ
て十九兩とにリドル九個を換へ合ひ十九兩と小
銀三圓に換へあつた發行を示して

今月の交直しと戻りは依然然人氣旺盛にて
 びびり懨々たり不知今夜の變動如何
 岡店の賣七千餘石買三千餘石
 岡店の賣三千餘石買四千餘石
 岡店の賣四千餘石買三千餘石
 岡店の賣三千餘石買四千餘石

同府の貢千餘石
大阪の成行
急激生れ直立直
りたるが昨秋五
を降したるも直に九十三と返し如何に
るとも
も風位

は依然陰雨の風氣吹き降り未だ慨嘆す
思はれず或は外來引くやと計難

又復輓開き一時朗客は思は
しめたるが今前曲

後

十日の十月限
客付 十九圓十五錢
客止 十九圓十八錢

東信

東清値上承認しんじやうじやうしやうしやうしやうしやう

亂暴極まる行爲を閉ふ可
れども露國現下の實狀は全ち他